



市長 寿人さんの広島愛を感じますね。ちなみに私は、お好み焼きをフライパンで作るんですよ。サンフレッチェでの思い出はありますか。

佐藤 特に印象に残っているのは2007年のJ2降格です。一番苦しい時にサポートしてもらって、本当に広島の人って温かいなと感じました。その時のサポートがあったからこそ、選手も踏みとどまり、その後の優勝につながったと思っています。

市長 翌年にはJ2で優勝してJ1復帰を果たし、その後はJ1で3度の優勝、平和大通

りのパレードもすごく盛り上がり、サッカースタジアム建設の機運が高まりましたね。広島愛というか、同じ地域で同じものを愛でるパワーはすごいなと。私自身もスポーツの力を改めて実感しました。

佐藤 僕は2012年に一日安佐南区長もさせていただいて。その時、地元の人々の広島愛というか、広島のみちはいろんな人の手によって支えられているんだと実感しました。自分も微力ながらいつか支える側に回れたらいいなと。そういう思いがボランティアをするきっかけにもなりました。

市長 西日本豪雨災害の際、広島で土砂撤去やチャリティーサッカースクールをしていただきましたね。人間は、決して一人で人間としての活動を完成することはできないんじゃないかと思っています。みんな、助けられてここにいる。だから、自分に余力があるときは、人のために何かをする。そういう助け合いの気持ちがあった方が、みんなが幸せな人生を送れるんじゃないでしょうか。

佐藤 僕自身、自分の力だけでなく、本当にいろんな人の支えがあったから長く選手としてプレーできたと思っています。引退した今だからこそ、困っている人がいれば手を差し伸べてあげられるような状態でいたいと感じます。

平和への思い

市長 広島を離れた後も、寿人さんはSNSで平和への思いを発信されていますね。

佐藤 8月6日は、広島を離れても忘れてはならない日と思っています。被爆地広島だからこそ、世界に向けて平和を訴え、発信していく大きなパワーがあるのではないのでしょうか。アスリートの立場でいえば、スポーツは平和な世の中がない限り成り立たないものなので、平和の発信はしっかりやっていきたいです。子どもたちなどに平和を伝えたり、広めたりと、何かをやっていきたいというのは常に感じています。

市長 「平和」という言葉はいろんな意味合いがあって、「国が平和」「心が平和」といった使い方をしますが、中心は常に「人」なんです。「平和」とは「生きざま」に直結している思いで、あえて言えば「人がおらかに、伸び伸び生きていける状態であってほしい」と思うことだと感じています。そうした考えでみんながいろんなこ

とを、楽しくやるのが「平和文化」だと思っています。スポーツは、その平和文化の一つで、勝利のためにルールを守りながら正々堂々戦う競技です。それをみんなが見て「ああ素晴らしいな」と思うんですよね。寿人さんはその精神をしっかりと持ちなのだから、いろんな行動をやり続けていただければ、自然と平和のためになっていくんじゃないでしょうか。

サッカースタジアムと中央公園

市長 昨年3月、皆さんが熱望していたサッカースタジアム建設の動きが具体化しました。

佐藤 優勝してから建設に向けた機運が高まってきましたが、もしかしたらできないんじゃないかっていう思いも当時は正直ありましたね。



市長 場所の選定が問題でしたからね。私個人としては、中心部となると中央公園広場か旧市民球場跡地しかないと思っていました。ただ旧市民球場跡地は、近くには平和の象徴である原爆ドームがあって、その景観を守るために、市民球場は移転したと思っていましたから、そこにサッカースタジアムを造るのはどうなんだろうと。当初、中央公園広場は候補でしたが、早い段階で外れてしまいました。近くに市営住宅があって、お住まいの人々の迷惑になる恐れがあるからだ。検討過程で、南区の広島みなと公園になったんですが、今度は、風は吹くし中心部から離れることなどから難しいという話になりました。そこで私は、課題はあるかもしれないが元々念頭にあった中央公園広場で何とか進めてくれないかと言って、再検討することになったんです。どこにスタジアムを造るにしても、さまざまな立場からの声があります。改めてきっちり疑問や要望を聞き、まちづくりをさらに進めていく、みんなが喜



広島市長
まついかずみ
松井一實 (68)

あけましておめでとうございます。2022年が市民の皆さんにとって良い年でありますよう、お祈り申し上げます。

初優勝報告会 (2012年12月16日)



優勝パレード (同日)

